

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100927		
法人名	社会福祉法人 峰栄会		
事業所名	さぎの宮グループホーム		
所在地	静岡県浜松市東区小池町38番地の1		
自己評価作成日	令和2年 2月 20日	評価結果市町村受理日	令和2年 9月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和2年 7月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全国的にも珍しい、4階にあるグループホームです。天気の良い日には、富士山を眺めたり、夏には花火鑑賞ができる環境のよい場所となっております。1ユニットである為、こじんまりとしますが、その分一人ひとりの個性を活かし、利用者の持っている能力を發揮できるよう支援しております。「利用者主体の生活の提供」と「日々のケアの積み重ね」をモットーとし、職員は利用者が自分らしく生活できるよう、毎月話し合いを重ねております。平成13年の開設当時より、職員の出退勤時には、一人ひとりの利用者と挨拶を交わしたり、毎日たくさんの「ありがとうございます」という感謝の言葉を利用者へ伝えている、温かみのあるグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホームの4階に位置し、屋上からの眺望は素晴らしく開放感あふれている。ボランティアの方と協力して四季折々の花や野菜を作り、水やりや収穫は利用者の役割であり楽しみになっている。事業所は地域に根ざした福祉施設として30年の歴史があり、地域から信頼を得ている。グループホームにも理解があり、秋祭り、納涼祭、小池会館祭り、地域の行事への参加、買い物時の挨拶等、地域の一員として生活を送っている。自分らしい生活が送れるように生活史シートを活用し、生活習慣や価値観、こだわりを大切に、持っている力が發揮できる支援に努めている。事業所全体でその人らしい生活の実現のために、人材育成にも力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と事業所の基本方針を理解し、個人目標や事業計画につなげ実践している。日々の買い物を通して、自然に地域と関わり、地域に認知していただける施設となるよう努めている。	法人理念はグループホームの特性を踏まえ、事業計画を作成し個人目標で具体化している。目標から月間目標を定め、管理者と実施状況を確認し次月に繋げている。目標管理シートを活用して、理念の具現化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、納涼祭、会館祭りに出向いたり、地域のスーパーに買い物に行っている。浜松まつりや地域のお祭り時には、施設を休憩場所として開放している。	日々のスーパーマーケットでの買い物や病院受診、喫茶店の利用等、地域資源を活用している。小池会館祭りには作品を出品している。自治会より事業所に毎年納涼祭の招待状が届き、地域の一員として認知されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の介護者教室での、認知症の講義にて、ロールプレイを通して、地域に向けて認知症の対応方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回運営推進会議を開催し、活動報告や事故報告、入居者の日々の様子等を伝えたり、感染症対策や防災について、意見交換をしている。今年は、HEK1990の取り組みを発表した。	自治会長や民生委員、行政や地域包括支援センター、入居者や家族、旧自治会役員や故利用者の家族等多くの参加により、地域の連携や開かれた事業所となっている。取り組み状況を映像で報告して理解に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所の担当の方にも出席をお願いしている。欠席の場合は、議事録を渡している。	運営推進会議では市の状況やアドバイスを伺うように努めている。社会福祉法人が運営する事業所なので、生活保護受給者の入居等がある。最近生活保護受給者の方が入所したことで行政と連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言している。施設内に身体拘束廃止委員会があり、毎月身体拘束の課題に取り組んでいる。事業所では、身体拘束適正化委員会を設けている。	事業所内に身体拘束廃止委員会が設置され、年間を通し課題に取り組んでいる。身体拘束の禁止についての具体的な行為の学習や拘束体験から理解を深めている。身体拘束適正化委員会で拘束しないケアの徹底に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内に虐待防止委員会がある。年2回、虐待チェックリストを行い、日々の利用者への対応を振り返っている。また、内部研修で虐待について学ぶ機会もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議にて、年1回権利擁護について学ぶ機会がある。以前、日常生活支援事業を活用していた利用者もいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者と家族が納得出来るよう説明と話し合いを行い、契約終了時も時間をかけ話し合い、お互いが納得できるまで行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族参加型の行事時には、家族会を開催し、意見を伺うように努めている。また、運営推進会議には、ご家族全員に案内を配布し意見をいただける機会を設けている。	家族参加型行事と同時開催で家族会を年2回実施していたが、今年は参加型行事が3回となり、多くの意見を伺う機会が増えた。利用者の近況を伝えることで、具体的な意見や要望、提案がしやすくなるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会やサービス会議では、意見交換をし、話し合いをしている。また、定期的に管理者と面接を行い、職員の意見を聞く機会を設けている。	管理者は、毎月の振り返りや年2回の面接時、また、日常の中で聞く機会を設けている。意見や提案は、職員全員で検討し反映させている。最近「安らぐひと時が欲しい」の職員の声からコーヒーマーカーを購入した。施設長とも年1回話をする機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度や目標管理シート・HEK1990を活用し、職員がやりがいを持って働けるようになっている。休憩時間には、ホットカフェを利用できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では、施設間交流・中堅職員研修・初任者研修や毎月内部研修があり、学べる機会がある。今年度は、施設間交流に職員2名が参加をし、認定子ども園と短期入所施設と交流し学びを得た。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	親睦旅行・忘年会があり交流できるようになっている。また、法人内で毎月、内部研修があり、他事業所や他職種の方と、グループワークを通して、意見交換ができるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、声掛けを多くし、日々の会話の中から希望・要望・困っていることを聞きだし信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、家族に希望や要望、不安はないか等伺い、安心して利用していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の経歴や家族の話を参考にし、その時必要なサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本方針である「共に生きる」をもとに、できることは利用者と共にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアの中で迷うことがある時は、家族へ連絡をしたり、話し合いをし一緒に考える時もある。面会時には利用者の現在の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で、馴染みの美容院やお墓参りに行かれる利用者もいる。入居前には、家族に協力していただき、生活史シートに馴染みの場所や人を記入し把握に努めている。	入居前に生活史や人間関係、馴染みの場所や生活習慣をシートに記入してもらい把握に努め、家族の協力を得て関係継続を図っている。手紙を活用して孫や親戚と交流している。訪問しやすい環境を整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有空間である食堂の座席の配置に工夫し、仲の良い気の合う利用者同士を同じテーブルにつけるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前利用された方の御家族が、運営推進会議へ参加されたり、菜園の手入れをし野菜づくりをして下さったりと、交流が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や表情から、意向を確認している。会話が困難な方には、快・不快の表情や表現を汲み取り支援をしている。また、面会時や行事時等に家族の意向も伺っている。	日常的に会話や利用者の表情から把握している。特に病院の受診時などで利用者との会話から思いを共有している。家族からは、行事の参加時や面会時の記録から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、居宅のケアマネより情報提供を頂いている。ご家族には、生活史シートの記入を依頼し、シートを参考にして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な生活リズムを整えながら、その方に合わせた過ごし方が出来るよう支援している。その時々々の心身状態により、臨機応変に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議だけでなく、気になることが発生した場合は、出勤職員で話し合いを対応している。家族にも、報告をし、介護計画に反映している。	定期的なカンファレンスで意見交換をしてモニタリングを行い、計画の見直しをしている。モニタリング時に職員全員で、利用者個々に対する支援方法を検討している。家族からも意見を聞き、計画に反映させている。	入居して何年か過ぎると体力が落ちて身体的にも変化が出てくるので、今後は予防策を考慮した介護計画の作成が期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容については、細かく日誌に記入し、全職員が確認・共有をしている。何かあれば記録を振り返り、対策を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望による買い物や外食、家族との外出支援や地域の祭りやイベントにも参加している。今後も本人や家族からの希望があれば可能な限り対応していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物は、地域資源を活用できるよう支援している。地元優先に出かけ、家族の協力のもと、行きなれた馴染みの美容院や病院を利用している利用者もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には、定期的に職員と一緒に受診をしている。状態に変化がある場合は、ご家族にも同行していただき、かかりつけ医から直接、説明を受けられるように支援している。	入居前のかかりつけ医に受診している利用者は家族が対応し受診内容の報告を受けている。他の方は嘱託医へ職員同行で受診している。嘱託医は24時間受診で相談の対応も可能である。歯科医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全体の申し送りにて、情報を共有している。また、かかりつけ医が併設の特養の嘱託医である為、連携が取りやすい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療連携室と連携し、情報交換を密に行い、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化指針の説明を行い、同意を得ている。状態に変化がある場合は、家族と話し合いを行い、今後の方針を決めている。	終末期の支援については、かかりつけ医や家族、職員で話し合い、利用者が事業所での支援が合うのか、又は、特別養護老人ホームや病院等への移転か等、最善の支援方法を検討している。看取った方は、同法人の入浴室を利用したり、関係機関と連携して対応を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを周知している。防災訓練時、消防署の協力のもと、AEDの訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練があり、初期消火や地震時の避難訓練等を行っている。地域の防災訓練では、要配慮者の受け入れをしており、協力体制を築いている。また、静岡DCATの登録員職員もおり、外部の研修にも参加している。	防災訓練を月1回事業所全体で実施している。9月には地震想定訓練も行った。地域の防災訓練には、利用者数名と職員が参加したり、要配慮者の受け入れ施設になったりと、協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、毎日利用者一人ひとりに挨拶を行っている。支援・介助の際、必ず声掛けを行い、本人の同意を得てから支援・対応をしている。入浴は、マンツーマンで行っている。	常に利用者への挨拶、誘導の声かけやさりげない言葉かけに配慮している。部屋のドアは閉めてあり、入室の確認をしている。個人の問題は自室で話す等、プライバシーを尊重している。一人ひとりを知り、個人を大切にしたい支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のおやつは、本人の好みで選んでいただいている。行事の前には、寄り合いを開催し、利用者の希望を伺っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビを見たり、ラジオを聴いたり、居室で過ごされる方もいたり、利用者本人のペースで過ごしている。毎日、神棚のお水を交換している方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特別な日(敬老会・外出など)に、お化粧品をしたり、本人が常につけているアクセサリや時計・お守りが着用できるよう支援している。定期的に、美容院が利用できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日食べるお米を研いでいただいたり、昼食に1品副菜を職員と一緒に調理している。買い物での、食材選びから調理、自分で食べられる量をよそったり、食器を洗い拭くまでの、一連を食事とし、出来ることは行っていただいている。	主菜は併設する特別養護老人ホームの厨房で作っているが、他の調理や盛り付け、片付け等は職員と共に行っている。献立を決めて買い物に出掛け、食材選びを職員と行っている。職員も一緒に食事をするが、現在はコロナ感染に配慮して別々に摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量・水分量を記録に残している。栄養の足りない方は、高カロリーゼリーや飲料を対応し、栄養バランスのとれた食事の提供に心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・入床時には、口腔ケアを行っている。利用者の状態に応じて、歯ブラシやスポンジを使用している。義歯は、每晚ポリデン消毒をして、清潔に保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排尿・排便を、排泄表に記録している。トイレの場所がわからない方の為に、トイレのドアに花飾りの目印を置き、自分でトイレへ行くことができるよう工夫している。	排泄表から排便や排尿のパターンを把握して、誘導している。排尿サインを見逃さず、生活習慣を活かしてトイレでの排泄を支援をしている。排泄表から排便状況を確認して下剤の調整をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時、ヤクルト・バナナやヨーグルトを提供している。また、1日2回、体操を行い、運動する時間を設けている。便秘が続く時は、主治医と相談し、下剤を服用している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、マンツーマン対応しており、一人ひとりがゆったりと気持ちよく入浴できるように支援している。入浴拒否の強い方には、無理強いせず時間をかけて、再度誘っている。また、気持ちよく入浴できるよう誘い方に工夫している。	原則として週2回は入浴しているが、希望により3回入る方もいる。時間は決めず、意向に沿った支援を心掛けている。入浴を拒む利用者には、本人の興味のあることを話す等工夫して、気持ちよく入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は、寝具を干し、快適に安眠できるように努めている。冬場は、湯たんぽを活用している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って、服薬の支援を行い、職員は、服用している薬を理解している。錠剤の飲み込み方が上手く出来なくなった場合には、かかりつけ医へ相談して粉末に変更して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	折り紙や塗り絵が好きな方には、出来る環境を整えている。チョコレートが好きな利用者が入居してから、おやつ時にチョコレートが増えたりしている。利用者のできること、できないことを職員は把握して支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物や地域の行事に、参加できるように努めている。外食の好きな方には、病院受診後、昼食を食べたり、時間のある時は、喫茶店へ出向いたり支援をしている。	利用者一人ひとりの希望に合わせて、買い物や喫茶店に行ったり映画鑑賞に行ったりと、外出を積極的に支援している。その他ふるさと(京都や三重)訪問など、利用者の要望を実現出来るよう支援している。家族の協力で墓参りに出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の心配をしている利用者には、あえて財布を持っていただき、安心していただいている。買い物時には、職員が立て替えている為、利用者本人が現金を使用することはない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在希望がないため手紙・電話のやり取りをしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同のフロアには、さりげなく利用者の手作り作品が置かれている。天井が高い為、圧迫感のないスペースであり、間接照明と木材で暖かな雰囲気がある。玄関前の長椅子からは、菜園や花壇を眺めることができ、季節の野菜や花を楽しめる。	居間・食堂・台所はワンフロアで天井が高く広々としている。明るく、居心地が良い空間となっている。廊下には作品が飾られ、事業所一同で作成した花火の壁画が、季節を感じさせてくれる。混乱を招く不快な音もなく、静かで落ち着いた雰囲気の場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外にも椅子を置き、自由に座れるように配置している。また、玄関前に、ベンチや椅子を置いてあり、日光浴をされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで使用していたものを持ち込んでいただいている。家族の写真や青春時代のアルバムを飾っている方もいる。テレビを持ち込んだり、神棚を飾っている方もおり、本人が居心地よく生活できる環境となるよう努めている。	自宅で使用していた家具を置いたり、家族の写真や神棚を飾ったりと、居心地の良い環境を作っている。自分で汚れ物を洗濯し、ハンガーを使用して干したり、カーペットを敷いたりして、個々の暮らしを尊重している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように、花を飾り目印としている。ベッドの高さも、本人に合わせた高さ調節をおり、安全に配慮をしている。		